

# 二重床 標準施工要領書



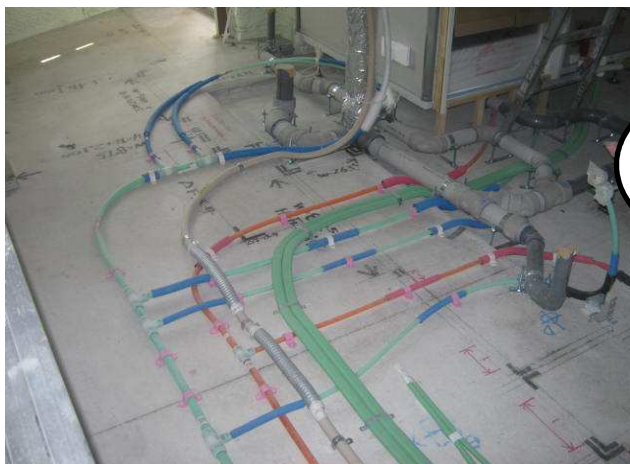
テーマ  
『施工品質の均一化を目指す』

株式会社 ツーケン工業

1 乗り込み準備 書類の確認をしましょう。

施工要領書	仕様の確認
断面図	床構成の確認(床厚)
割付図(基本構成図)	施工要領書内参照 システムネダの使い分け確認
平面詳細図	現場で入手の事 仕上げ確認等、他多数確認

2 置床前清掃の確認 施工前に必ず確認しましょう。



転がし配管下まで  
清掃が行き届いているか  
確認しましょう！！

3 共通ルールの確認

●床レベルについて

サッシ天端・UB入口下枠・基準墨の3点を基本とする。  
レベル誤差3mm以上の場合、現場と検討の事とする。  
サッシ前かぶせ見切り・・・受け材サッシのみ込み、差し込み寸法9mm  
UB前・・・下枠設置確認



床レベルは、居住空間にとって大切な重要管理項目です。  
部屋全体を均等にレベルの統一を目指しましょう！！

●発泡ウレタン欠き込みについて

防振システム根太ボルト システム根太ボルト	45mm程丸穴	※専用錐にて施工
支持脚	45mm程丸穴	※専用錐にて施工

※支持脚を固定する接着剤の発泡で錐で空けた空間を埋める。断熱性能の低下をさせない。



発泡ウレタンを欠き込んだ後の補修をしっかりと行いましょう！！  
ボルト及び支持脚設置以外の発泡ウレタンは、勝手に削る作業はしない事！！



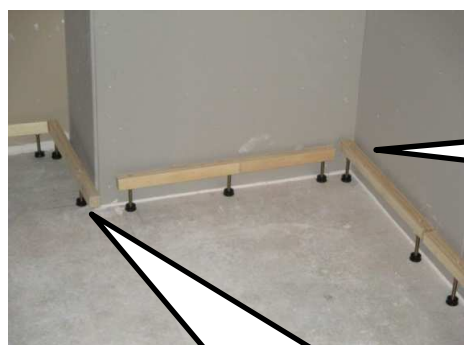
●設備床開口について

基本は、墨出しを設備業者もしくは元請けに依頼の事。  
床開口図を入手し確認しながら施工の事（洗面化粧台下、洗濯機パン下、キッチン下、トイレ手洗い下）

4 システムネダ施工

割付図(基本構成図)にてシステムネダの使い分けを確認の事

○システム根太入り隅寸法はね出し100mm以上カットし支持ボルトを50mm以内とする



入隅: 100mm以上カットし  
支持脚ボルトを50mm以内とする。

出隅: 支持ボルトがくるように配置する。又は、支持脚補強を入れる。

## 5 パーティクルボード施工

キッチン前面/キッチン食器棚想定位置/キッチン内冷蔵庫想定位置/洗面化粧台前面に支持脚を設置する。@300

補強の穴は、  
インパクト又はドリルを使用し13.5mm錐・15mm錐にて丸穴加工とする。



点検口等開口部には、支持脚で補強とする。



開口部の補強は、4隅に支持脚を設置の事。

各開口部(出入り口)下は支持脚を@300にて補強する。

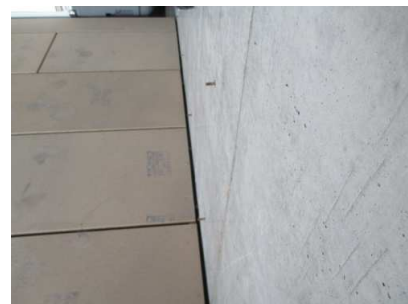


出入り口のパーティ目地の段差は要注意！！  
フローリング施工時の枠切りに影響あり！！

パーティと壁の隙間万協15mm・その他メーカー10mm程度を確保する。(極力均等に隙間を確保する)



均等に！！



パーティ張り出し・張り終いは、長辺/短辺方向共に最小寸法を200mm以上とする。  
注: 施主仕様により最小寸法250mmとなる場合あり。

短手・長手共に  
最小寸法200mm以上  
とする。



### 釘の選定

20mmパーティクルボード・・・釘(38mmスクリューネイル)又は、38mmパーティクルボード用ビスを使用しての施工とする。  
25mmパーティクルボード・・・釘 使用禁止 41~45mmパーティクルボード用ビスを使用しての施工とする。

### 万協スラブブロックシステム

支持脚固定の接着剤(BA400)は、ゴムからはみ出すように適量を入れる事。



### 6 TGボード 捨貼工事

TGボード・ベニヤはパーティ目地から100mm以上ずらして敷き込みの事。



割付、100mm以上ずらして敷き込む事。

ベニヤは目地ずらしにて施工する。※イモ張り禁止

TGボードは、イモ張り施工可。

ベニヤ貼り



TG貼り





CF仕上げ 下地ベニヤ

トイレ:目地をつくらず1枚物での施工とする。(目違い防止)

洗面所:極力目立たない所に目地がくる割付をする事。入り口付近は極力避ける。



トイレ:3×6ベニヤにて1枚で施工できない場合。

洗面所:目立たない箇所で割付ができない場合。



トイレ:4×8ベニヤ4×9ベニヤ等で対応する。もしくは、最大限目立たない箇所を選定し現場ごとに統一した割付とする。

洗面所:最大限目立たない箇所を選定し現場ごとに統一した割付とする。

### 留め付けピッチ及び釘の選定

ベニヤ釘留めピッチは、短辺5本・長辺8本 計40本以上 とする。

※20mmパーティチへ9mmベニヤ捨貼の場合 27mmスクリー釘使用の事。 ※その他、床厚を確認し選定の事。

TGボード釘留めピッチは、短辺4本・長辺7本 計28本以上 とする。 ※27mmスクリー釘使用の事。

TGボード縁より内側へ40mm以上の箇所へ打つ。

**注:パーティチ下に釘が飛び出ない事を確認する事!!**

TGボード・ベニヤと壁の隙間10mm程度(仕上げ:FL・石・カーペット・畳等)  
CF仕上げ部、ベニヤと壁の隙間1mm~2mm程度とする。(0mmはNG)

TGボード・ベニヤ同士の隙間3mm程度  
CF仕上げ部ベニヤ同士の隙間0mmとする。  
(目違い等、指摘が大変多い項目となるのでペーパー処理にて仕上げる事)



ベニヤ貼り後、フローリング仕上げ箇所に関してパーティチ目地を極力きれいにマジックにて線を引く。(色を統一する)



**最終確認!!**

※勘違い・チェックの見逃しを気づく事ができる最終確認作業!!

施工完了後の清掃を徹底して下さい。  
残材を残さないようにしましょう。

自主検査表を実施し丁寧に記入しましょう。